

安倍政権の「九条改憲」への暴走を許さず、 憲法を生かす都民本位の都政の実現を！ 世界一働きやすく、くらしやすい 希望のもてる東京を

九条の会東京連絡会事務局長談話を紹介します。

一年前に「国政に戻る」と突然都知事を辞職した石原慎太郎氏に後継指名を受け、未曾有の得票で都知事の椅子に坐った猪瀬直樹氏が、医療法人徳洲会からの5000万円収賄疑惑が深まる中で昨年暮れに辞任に追い込まれ、東京都知事選挙が1月23日告示、2月9日投票でおこなわれることになりました。

石原・猪瀬と続いた東京都政は、国政追随、大規模開発優先、医療・福祉切り捨て、教育の反動化などを押し進め、長年にわたって都民のくらしといのちを脅かしてきました。さらに、尖閣諸島購入発言や寄金募集などの中国敵視政策に都民を巻き込んできました。

一方、この一年、国民の期待を裏切った民主党への失望から復活した安倍第二次政権が、「積極的平和主義」を掲げて秘密保護法を強行するなど、「戦争する国」へと突き進んでいます。また、「原発ゼロ」への世論を無視し、「原発再稼働・輸出」をすすめています。

このときにおこなわれる東京都知事選挙は、「都民が主人公」の東京を都民の手に取り戻す絶好のチャンスであるとともに、安倍政権の「戦争する国」・「原発再稼働」への暴走を許さない首都東京の都民の意思を示すときでもあります。

告示を目前に特定の人びとが知名度や人気度で候補者として取り沙汰され、「後出しジャンケン」などという戦術も含めて、今また、マスコミがめくらましの役割を果たしています。

「九条の会」運動をとりくんでいる私たちは、「憲法」をどのように考えている候補なのか、これが基本です。こうした中で、逸早く立候補を表明された宇都宮けんじさんは、「安倍政権の暴走をストップし、憲法を守り、東京からアジアに平和を発信します」と政策に掲げられました。

私たちは、安倍政権の「九条改憲」への暴走を許さず、憲法を生かす都民本位の都政の実現をめざします。

2014年1月10日

九条の会東京連絡会 事務局長 島田修一

2014年、歴史を前に！



安倍政権は12月6日、「秘密保護法」を強行成立させ、18日には、戦争する国へ加速する「国家安全保障戦略」が閣議決定されました。26日には、安倍首相が靖国神社へ参拝しました。27日には仲井真沖縄県知事が新たな米軍基地建設のために、沖縄県民の総意を踏みにじり、辺野古周辺の埋め立てを承認しました。憲法9条と相いれない、憲法無視の施策が進められています。都政では、徳洲会からの5000万円の裏金を受け取ったことが発覚して、434万票を得た猪瀬知事が任期1年で辞任しました。

しかし、秘密保護法はその成立で廃止を求める声は大きくなり、戦争する国への暴走STOP、憲法守れの声が広がっています。靖国神社は、戦前は軍の管理で、侵略戦争を「自存自衛の正義のたたかい」「ア

ジア解放の戦争だった」と正当化する、特殊な施設で、首相や閣僚の参拝は、そうした侵略戦争肯定・美化の立場に自ら身をおくことを認めるものです。その靖国参拝も中国・韓国の反発、米国は失望、ロシアは遺憾。藩基文国連事務総長は「犠牲者の記憶に敏感である必要性」を強調、EUは「緊張を高める行為の自粛」を要望と…。世界から孤立してしまいました。辺野古をめぐるのは、札束を前に最悪の決断を下した知事や自民党への県民の意思を示す名護市長選(1/19投票)と東京では都知事選(2/9投票)が行われます。

今年4月には、安倍首相の私的諮問機関の安保安法制懇が集団的自衛権行使を全面的に容認する報告書を出し、6月22日までの通常国会で、閣議決定や首相答弁で集団的自衛権行使の容認を狙っています。次は、国家安全保障基本法案の国会提出へと進み、海外で戦争する国をめざしています。

今年はこれとの闘いが正念場を迎えます。

私たちは、憲法9条を守り、歴史を前に進めるために今年も力を合わせましょう。

オリバー・ストーンさんら29人が 辺野古の新基地反対の声明



映画監督のオリバー・ストーンさんやマイケル・ムーアさん、言語学者ノーム・チョム

スキーさんら世界の識者・文化人29人が、アメリカ軍の普天間飛行場を名護市辺野古に移設する計画について反対する声明を発表しました。声明は、声明は、「仲井真知事の埋め立て承認は沖縄県民の民意を反映したものではなく、県民に対する裏切りだ」と指摘し、「普天間は終戦後に返還されるべきだった。返還に条件がつくことは許されない」として、普天間飛行場の即時返還も要求しています。

やった! 新基地NO!の稲嶺氏勝つ。

沖縄・名護市の市長選の投票が19日に行われ、「海にも陸にも新しい基地はつくらせない」と訴えた現職の稲嶺氏が19834票で、新基地推進の末松氏に4000票余りの差をつけて大勝しました。

ニュースの目 12月6日秘密保護法強行。 翌日の新聞の社説は



読売が「国家安保戦略の進化につなげよ」と肯定的な社説を掲げましたが、朝日は「憲法を骨抜きにする愚挙」、毎日「民主主義を後退させぬ」、東京は「民主主義を取り戻せ」、日経は「『知る権利』揺るがす秘密保護法成立を憂う」と反対の論陣を張りました。財界・経済界の新聞である日経までもこうした社説を掲げ、編集委員は「これで幕引きにするわけにはいかない」と書いています。経済界までも秘密保護法に危惧を抱いているということでしょう。週刊誌では、「女性自身」が“法施行の先には…戦争が待っている”と特集を組み、「週刊女性」は“本誌は断固反対です!!”と宣言し、戦争へ加速する秘密保護法廃止のために私たちができることの特集を組んでいます。

今必要なことは秘密保護法廃止を言い続けることです。各種選挙では「廃止」の人を選ぶことです。(写真は秘密保護法案廃案を求める国会デモで、九条の会東京連絡会とあきる野の旗)

今必要なことは秘密保護法廃止を言い続けることです。各種選挙では「廃止」の人を選ぶことです。(写真は秘密保護法案廃案を求める国会デモで、九条の会東京連絡会とあきる野の旗)

絵本「メガネをかけたら」が受賞

はじめてメガネをかける子どもの不安を描く心温まる物語「メガネをかけたら」が第



23回けんぶち絵本の里大賞の『びばからす賞』を昨年10月に受賞しました。作：くすのき しげのり、絵：たるいし まこによるもので、垂石さんはあきる野市在住です。北海道剣淵町の「剣淵町絵本の館」の来館者が選ぶ文学賞です。

1面トップで「先生が脱暗記教科書」と

東京新聞1月7日付で、「中学校で歴史を教えてきた元教師や現役教師三十人が執筆した中学歴史教科書が、2014年度の教科書検定で初めて申請される。



『教師が教え込み、覚えさせる教科書では、子どもに歴史を学ぶ楽しさは伝わらない。新しい教科書をつくりたい』という熱意が、元教師たちを動かしている」と1面トップで報道されました。取材を受けたのは不破修さん(写真右側)ら。不破さんはあきる野9条の会の呼びかけ人です。

さよなら原発～にしたま～が第15回集会

11月24日につづき12月26日には15回目の集会があきる野ルピアで行われ「福島第一原発は今～汚染水問題」と



題してたんぼぼ舎の山崎久隆さんが講演し、参加者で話し合いを行いました。問合せ 559-6941 谷口さん。

事務局だより

- あきる野9条の会賛同署名 累計は1,042名
- 日本国憲法第96条、第9条の「改正」に反対し平和憲法を守りましょうの署名 累計250名。なお、この署名は集約といたします。署名と一緒にカンパも寄せていただきました。ご協力ありがとうございました。
- 憲法守れ、安倍政権の暴走ストップ12・8三多摩大集会 サンタマンと一緒に声を上げようと12月8日井の頭公園で行われた集会にはあきる野から35名が参加しました。
- いぬねこ2014憲法9条カレンダーは43部の販売で収益は8600円でした。ありがとうございました。
- 定例サポーター会 次回第96回は2月14日(金)午後3時から市役所1階で。ご参加ください。
- インターネットで情報を発信中 **あきる野9条の会** **検索**でホームページやブログ事務局だよりをクリックしてご覧ください。Eメールアドレスを登録していただければA9情報を送信します。